

基調講演

憲法がEU(欧州共同体)に必要なのはなぜか —日本での憲法にかかわる国民投票への示唆

グリーン・フォード欧州議会議員

○概論

日本も欧州も憲法状況は「生み」の苦しみにある。

欧州憲法によってもたらされる変化とは何か

—効率性の強化と民主制の強化

○ EU憲法策定過程について

欧州石炭鉄鋼共同体設立から憲法条約作成まで

—社会経済共同体としてのEU

○ さらなるEUの拡大へ—「防衛共同体」は可能か。

唯一の超大国・米国に対抗できるのは「軍事力」か。

共通の外交・安全保障政策(CFSP)の創出

○ 権力への抵抗

フランスとオランダでの国民投票での否決とイギリスの投票延期

EU憲法はもう一度、国民投票に付されるべきか。

(作成 市民版憲法調査会事務局)

★プロフィール★

グリーン・フォード(Mr. Glyn Ford)

欧州議会議員。1950年生まれ。海洋地球科学で修士号取得。1984年に労働党の欧州議会議員となる。2004年に南西イングランドを選挙区として2期目の当選。国際貿易、外交、安全保障委員会に所属。グリーン氏は朝鮮半島・日本に関するEU代表団のメンバー。日本への代表団のメンバーの副代表を5年間務めており、アジアとEUの関係性の発展に対する貢献度は非常に高い。フォードさんは主要関心分野として、外交、東アジア、民族差別主義の台頭、そして欧州をあげている。フォードさんはEUにとって憲法を採択することは大きな進展につながると考える。EU憲法ができることによって民主的に選ばれた欧州議会の議員はより強い権限を持つようになる。つまり、EU創設以来からある未解決の問題や(法律の)抜け道をなくすことができる。2004年に10か国の加盟後のEUとしての組織的体系を整えることができる。欧州憲法ができることによって、国家を超越する「超・国家」が形成されるのでもなく、国家が持つ移民や課税の権利がなくなるわけではないということを人びとは理解すべきであり、そのための議論がさらに活発になるべきだと考えている。